

令和 3 年度障害者生活支援事業実績報告書

特定非営利活動法人で・らいと
指定相談支援事業所 障害者生活支援センター プラム

家族に対して暴力を振るい、怪我を負わせた結果措置入院になった統合失調症に罹患している男性が数年間の入院の後、家族から「実家には戻ってこないでほしい。一緒に住めない」との意思が示されたため、家族と離れて一人暮らしをすることになった。

実家を訪問する際には必ず支援者とともに訪問すること、家には入らないこと等取り決めをし、父に小遣いをもらうなど交流していたが、本人は実家に帰りたい、家族に受け入れてほしいという気持ちはずっと持っており、「実家内に入らない」という約束を破って押し入り立てこもるなどしたこともあるが、その時は久しぶりに母の顔を見て話すことが出来たことで、穏便に退去することが出来た。6月頃から父の体調が悪い、と姉が父に代わって対応するようになった8月、いつものように本人と支援センターが訪ねて行くとやはり父ではなく姉が対応し、本人と「自室に入らせてほしい」「だめだ」の押し問答の末本人が実家に踏み込むと、死後1か月経過している父の遺体が見つかった。すぐに城陽警察に通報し、事情聴取に応じた。警察が姉たちに話を聞いたが事件性はないとのことで現在母と姉の二人暮らしとなっている。二人とも何らかの障がいがあるように思われるが、行政や福祉、医療機関に介入されることを拒んでおり後見人も含めて今後の対応を検討する必要がある。

次のケースも統合失調症の女性だが、夜中に徘徊して隣市の警察署に保護されたり、深夜、近所の住宅のインターフォンを鳴らして警察に通報されたり、いったん警察が保護したが自宅に帰した途端別の近隣住民の家に明け方押しかけて居座り、動かなくなったという事態になった。そのため父から連絡を受け説得に向かった。数時間に及ぶ説得に応じて入院（医療保護）の運びとなり、保健所に連絡をして受け入れ先を探し保健所の職員と共に搬送して入院の手続きを手伝った。

統合失調症に罹患している場合まず適切に医療にかかり服薬を行うことが必要であるが、このケースは2か月以上服薬をしていなかった。本人が父に「通院した」と言っていたことと、もともと他人と触れ合うなどの活動量が少なく、本人の言動がそこまで逸脱し崩れたものでなかったことから週1回会うヘルパーも異変を感じなかったという。

今回は3軒目に押しかけ、居座られた近隣住民が本人や父のことを良く知ってくれている人であったこと、普段から出来る範囲で通院に連れて行くなど協力的な自治会長が

いてこの日も一緒に説得してくれたことなど、周囲の暖かい見守りがあったことなどから大事にならずに済んだ面があるが、もし見ず知らずの人の家に居座ったとなれば、警察が介入して措置入院になることが予想される。

安定した地域生活を送るうえでフォーマルな支援に加え、インフォーマルな支援の必要性を感じたケースであった。それと共に適切に治療が出来ているかどうかの把握については医療機関からの協力が欠かせない。

このケースについては退院後、週3回の訪問看護を利用することで医療中断を招かないようにしていたが、退院から3か月程経ったところでまた深夜の徘徊、店などで叫ぶ、不可解な言動を行うなどの行動があったため、警察が介入しての医療保護入院となった。父と同居することで互いにストレスが大きく、外に飛び出しているようなので、本人の生活力を福祉サービスで補いながら単身生活を目指すことにする予定である。

昨年度から続くコロナ禍であるが、今年度5月頃から当市においても感染が増え、ヘルパー事業所から感染が広がったケースや複数の事業所を利用しているがために当該事業所とは別の事業所のヘルパーも休まざるを得なくなり、替わりが見つからず支援センターでヘルパー活動を代行したこともある。また、短期入所事業所を抱える法人でコロナ感染が広がったことでショートステイの利用がほとんどできなかつたり新規の利用者を断る事業所が多く、サービス利用において新型コロナウイルスの影響は大変大きいものであった。

A. サービス利用支援…1682 件

(居宅介護・日中活動・短期入所等に係る情報提供、契約支援、利用の助言、調整等)

身体障害者の相談件数が 12 件、知的障害者の相談件数が 568 件、精神障害者の相談件数が 1102 件となっている。これまで何度も居宅介護事業所とトラブルがありそのたびに事業所を替わっているケースでは、こまめに顔を出し間を取り持ちながら利用者本人を理解してもらい何とか利用を続けられている。新たな受け入れ先を探すことも大事だが一度繋がった縁を切らさず保ち続けることも大事にしながら支援をしている。

また新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から日中活動事業所の新規契約や利用が制限されるといった事態も発生している。

今年度は施設入所を希望する障害者の方が多く、それにまつわる相談、紹介、見学、申請手続き、計画変更、会議等が年度末に集中した。

B. 社会資源活用支援…1260 件

(施設の紹介や、病院、金融機関、飲食店、ボランティア等地域にある社会資源の活用支援)

身体障害者の相談件数が 28 件、知的障害者の相談件数が 224 件、精神障害者の相談件数が 1008 件となっている。コロナ禍での病院を含めた社会資源の利用の仕方についての相談等が多かった。感染拡大防止の観点から商業施設の利用や遠出などに関する相談などは 2 年前と比べて減ってきている。

C. 社会生活力養成支援…4944 件

(余暇の過ごし方や健康管理、金銭管理、友人・家族等との対人関係、交通・移動手段の活用、生活情報の活用など社会生活力を高めるための支援)

身体障害者の相談件数が 43 件、知的障害者の相談件数が 1173 件、精神障害者の相談件数が 3728 件となっている。統合失調症に罹患している精神障害者からの漠然とした不安、妄想に基づく不定愁訴の他、新型コロナウイルスに伴う緊急事態宣言下における行動についての相談も多かった。介護に疲弊した家族からの相談も増えている。

D. 専門機関との連携等…1130 件

(市・町、保健所、相談支援事業所、更生相談所、職業安定所、医療機関等専門機関との連携)

身体障害者の相談件数が 38 件、知的障害者の相談件数が 150 件、精神障害者の相談件数が 942 件となっている。精神障害者については特に訪問看護を含めた医療機関と、児童や高齢の親など同居し虐待のリスクがある場合は、児童相談所や地域包括支援センターとの緊密な連携が必要である。訪問看護や居宅介護事業所などが虐待の兆候に気づくことも

多く、普段から小さなことも報告、相談し合える関係づくりを行っている。

令和3年度 障害者生活支援センタープラム 相談件数

	身体障害者	知的障害者	精神障害者	合計
4月	8	215	526	749
5月	6	188	512	706
6月	16	132	573	721
7月	4	140	605	749
8月	13	173	555	741
9月	16	223	510	749
10月	19	121	566	706
11月	0	146	539	685
12月	5	168	534	707
1月	0	165	647	812
2月	14	146	507	667
3月	20	298	706	1024
合計	121	2115	6780	9016